

生徒の皆さんへ

学習用タブレットを使いこなして、自分を育てましょう

学習用タブレットを3年間お貸しします。"学習用"と、わざわざ名付けてい る理由は、次の3つの力を身に付けるために使うタブレットだからです。

- ・自分で目標を立て、計画的に学習する力……（〇〇したい。この計画で！）
- ・情報を集めて選び、まとめて表現する力……（これとあれで、こう考えてみた！）
- ・課題を見つけて、他者と共に解決する力……（あの子の意見と合わせたら！）

※学習用タブレット運用ガイドブック（豊田市作成）を分かりやすく改変

これらの力を身に付けるために、どんどん使ってください。どんどんとは、乱暴にという意味ではありません。借り物ですので、自分のもの以上に大切に使う、大人の使い方を心がけましょう。

さて、数年後はどんな世界になっているでしょう。デジタル化が進み、私たちはA I（人工知能）を使いながら生活していることでしょう。タブレットやパソコンなしではまったく生活ができない世の中になっていることでしょう。だから、今、ここで使い方をマスターしておきましょう。

大切なのは、①立ち止まって落ち着き、②この先にどんなことが起きそうか想像し、③確かな情報を集めて検討し、④これから行動をいくつか想定し、⑤そのうち一つを選んで行動することです。この①から⑤の考え方と使い方をマスターできたら、タブレットの一流の使い手となることでしょう。

えらそうなことを言っている私も、実は、最近あるスマホゲームにハマってしまい、課金してクリヤーしたくなる誘惑に駆られました。お金を他のことにも使いたかったので、①から⑤を思い浮かべながら、がまんしました。先日、夜桜を見に行きました。撮影した画像をSNSにアップしても大丈夫かなと、①から⑤の順に考え、安全を確認してからアップしました。

学習用タブレットは、課金、SNSやYouTubeの視聴などについて、フィルターがかかり操作が制限されていますが、フィルターを外す誘惑に駆られるかも知れません。Qubena（キュビナ）で勉強をしていたのに、しばらくしたら遊びに使いたくなるかも知れません。

使い方を間違えて失敗するかも知れません。深く考えずに行った失敗は良くありませんが、自分や友達を傷つけないか立ち止まって考え、行動した上の失敗は「その方法がだめだった」ということを学べる貴重な経験です。

困ったときは友だちや先生、親に相談してください。逆に、うまく使えるようになつたら先生たちに教えてください。先生たちも使い方を学んでいる最中ですので、生徒の皆さんと共に成長していきたいと思っています。

令和6年4月 竜神中学校長 緒方秀充

保護者の皆様へ

キーワード： 自律／活用／行動規範

本日、1年生に学習用タブレットを一人一台ずつ、手渡しさせていただきました。MSアカウントやPWは変わりません。これまで同様大切に扱いください。分からなくなつた方がおみえでしたら、担任までご連絡ください。

豊田市で学習用タブレットが導入されたのは2020年9月です。"学習用"と、わざわざ命名したのは、以下の3つの力を身に付けるために使うタブレットだからです。

- | | |
|--------------------|-----------------|
| ・自ら目標を立て、計画的に学習する力 | <自立・自律性> |
| ・情報を選択し、つなげて、表現する力 | <言語能力、情報活用能力> |
| ・課題を見つけ、他者と共に解決する力 | <協働性、課題発見・解決能力> |

導入からわずか4年で子どもたちの学校生活は激変しました。それに伴い、家庭での生活ぶりも変化したのではないでしょうか。こうした変動期では、目的にあった良い変化に対して悪影響が必ず共存します。例えば次の通りです。

○良い変化

- ・タブレットを道具として使うことで、自主的に学ぶ手段が増えたこと。
- ・デジタル化に対応した情報収集力や操作スキルを身につけつつあること。
- ・生徒↔生徒、生徒↔教師の双方型授業に移行が進み始めたこと。

▲悪影響

- ・学習以外にタブレットを使い、学習や睡眠の時間が減った子がいること。
- ・フィルタリングなどのセキュリティを解除する方法を試そうとすること。

また、大人社会は学校以上にデジタル化が加速しています。これまで、限られた一部の天才の発明で技術革新を起こして発展してきた社会が、生成AI（チャットGPT等）の出現により、タブレットなどの情報端末を有効に活用すれば、誰もが未来を創れる時代になりました。この考え方を"集合天才"と言い、多様な考えをもった人が集まって、持ち味を生かしながら新たな価値や仕事を生み出す社会になっています。

子どもたちは、そう遠くない未来、デジタルの海の中で社会人として生計を立てていくことになります。この未来社会に対応できるように、来年度の全国学力テスト（理科）はタブレットで行う方針が国から示されました。この子たちが大学入試や入社試験を受ける頃には、タブレット持参で行うような試験に変わっていることが予想されます。タブレットは、鉛筆やノートと並ぶ必須の文房具になることでしょう。

間違った使い方をしたら自他を傷つける凶器にもなりうるタブレットを、どうしたら上手に使うことができるか、大切なのは他律（他人任せ）／抑制（○○するな）／心情規範（我慢しろ）ではなく、自律／活用／行動規範（立ち止まり、どうしたら適切に使えるか、考え方決めて行動すること）です。

大人社会にデビューするまでに、優れた使い手になっていてほしいので、今のうちにたくさんの経験をさせたいと考えています。心配事は後を絶たないかと思います。気軽に本校教員にご相談ください。保護者の皆さまと手を携えて、お子様の確かな成長につなげていきたいと思います。どうかよろしくお願ひいたします。

令和6年4月 豊田市立竜神中学校長 緒方秀充